

中国の王朝

稲作の伝来と倭国での「クニ」の形成

弥生文化

春秋戦国時代
(前 770～前 221)

長江流域で稲作開始 (紀元前 6000 年頃)

↓ 大陸・朝鮮半島からの稲作技術や文化の伝来

《縄文晩期 (前 500 年頃) ～弥生時代前期 (前 100 年頃)》

水稻農耕の始まり : [a.] 遺跡(佐賀)・[b.] 遺跡(福岡)

⇒西日本から東日本 (東日本最古とされるのは青森県の砂沢遺跡) へと伝わる

秦
(前 221～前 206)

↓ 水資源・土地・余剰生産物をめぐる争い

[c.] 集落の出現…周囲に堀を巡らせた集落

↓ 例 : 吉野ヶ里遺跡 (佐賀)、唐古・鍵遺跡 (奈良)、池上曾根遺跡 (大阪)

前漢
(前 202～8)

《弥生時代中期 (前 100 年頃～100 年頃)》

前 1C 頃 史料 : [d. 『 』]

「クニ」の形成 : 小国家の分立 → 強力な首長の出現

夫れ [e.] 海中に倭人有り、分かれて百余国と為る。

⇒日本列島において「クニ」の形成が進んでいたことが分かる

↓ クニの統合が進む

1C 史料 : [g. 『 』]

・建武中元二年 (57 年) …倭の奴国王が後漢に朝貢

⇒後漢の [h.] から「漢委奴国王」の金印を授かる

後漢
(25～220)

《弥生時代後期 (100 年頃～3C 中頃)》

2C 史料 : 『後漢書』東夷伝

・永初元年 (107 年) …倭国王帥升が [i.] (奴隷) を後漢に献上

↓

2C 後半 史料 : 『後漢書』東夷伝

桓霊の間 (桓帝～霊帝の間) に倭国大乱が起きる

↓

3C 史料 : [j. 「 』]

・ [k.] 連合の成立…近畿説・九州説

- ① 女王 [l.] : 祭祀者的性格 ⇒ 弟が補佐
- ② 大人・下戸などの身分差、租税・刑罰制度
- ③ 魏の皇帝へ朝貢 (景初三年/239 年) し、
「m. 」として冊封を受ける

↓ 卑弥呼の死 (247) 後、内乱状態

卑弥呼の一族の耄与 (台与) が女王となり鎮まる

「空白の四世紀」
約 150 年間、中国の歴史書から倭に関する記述がなくなり不明

三国時代
(220～263)
魏・呉・蜀

晋 (西晋)
(265～316)

北部
五胡十六国時代
(316～439)

南部
東晋 (317～420)

《古墳時代の始まり (3C 半ば～4C 前半)》

ヤマト政権の成立…大和地方 (奈良県) を中心とする政治連合

- ・当初から田植えが行われる
 - ・水田は湿田が中心
 - ・石包丁など磨製石器の使用
 - ・木製農具を使用
 - ・高床倉庫への貯蔵
- ⇒初めて弥生時代の水田跡が発掘されたのが登呂遺跡 (静岡)

- ・支石墓や甕棺墓の出現 (九州北部)
 - ・墳丘墓の出現
 - ・ [f.] の製作…祭祀用
- ⇒共通の祭器として使用する地域圏の存在
- ① 銅矛・銅戈…九州北部中心
 - ② 銅剣…瀬戸内海中心
 - ③ 銅鐸…近畿地方中心
- 荒神谷遺跡 (島根) …銅剣大量出土
加茂岩倉遺跡 (島根) …銅鐸大量出土

- ・高地性集落の出現
- 瀬戸内海沿岸を中心に山上に築かれた
⇒例 : 紫雲山遺跡 (香川)

- ・鉄製工具・鉄製農具の使用
 - ・乾田の普及
- ⇒農業生産力が向上し、集落が増加
- ・大型の墳丘墓の出現

前方後円墳の出現

中国の王朝

稲作の伝来と倭国での「クニ」の形成

弥生文化

春秋戦国時代
(前 770～前 221)

長江流域で稲作開始 (紀元前 6000 年頃)

↓ 大陸・朝鮮半島からの稲作技術や文化の伝来

《縄文晩期 (前 500 年頃) ～弥生時代前期 (前 100 年頃)》

水稻農耕の始まり : [a. 菜畑] 遺跡 (佐賀) ・ [b. 板付] 遺跡 (福岡)

⇒西日本から東日本 (東日本最古とされるのは青森県の砂沢遺跡) へと伝わる

秦
(前 221～前 206)

↓ 水資源・土地・余剰生産物をめぐる争い

[c. 環濠] 集落の出現…周囲に堀を巡らせた集落

↓ 例: 吉野ヶ里遺跡 (佐賀)、唐古・鍵遺跡 (奈良)、池上曾根遺跡 (大阪)

前漢
(前 202～8)

《弥生時代中期 (前 100 年頃～100 年頃)》

前 1C 頃 [史料]: [d. 『漢書』地理誌]

「クニ」の形成: 小国家の分立 → 強力な首長の出現

夫れ [e. 楽浪] 海中に倭人有り、分かれて百余国と為る。

⇒日本列島において「クニ」の形成が進んでいたことが分かる

↓ クニの統合が進む

1 C [史料]: [g. 『後漢書』東夷伝]

・建武中元二年 (57 年) …倭の奴国王が後漢に朝貢

⇒後漢の [h. 光武帝] から「漢委奴国王」の金印を授かる

後漢
(25～220)

《弥生時代後期 (100 年頃～3C 中頃)》

2 C [史料]: 『後漢書』東夷伝

・永初元年 (107 年) …倭国王帥升が [i. 生口] (奴隷) を後漢に献上

↓

2 C 後半 [史料]: 『後漢書』東夷伝

桓霊の間 (桓帝～霊帝の間) に倭国大乱が起きる

↓

3 C [史料]: [j. 「魏志」倭人伝]

・ [k. 邪馬台国] 連合の成立…近畿説・九州説

- ① 女王 [l. 卑弥呼]: 祭祀者的性格 ⇒ 弟が補佐
- ② 大人・下戸などの身分差、租税・刑罰制度
- ③ 魏の皇帝へ朝貢 (景初三年/239 年) し、
「m. 親魏倭王」として冊封を受ける

↓ 卑弥呼の死 (247) 後、内乱状態

卑弥呼の一族の耆与 (台与) が女王となり鎮まる

「空白の四世紀」

約 150 年間、中国の歴史書から倭に関する記述がなくなり不明

晋 (西晋)
(265～316)

北部
五胡十六国時代
(316～439)

南部
東晋 (317～420)

《古墳時代の始まり (3C 半ば～4C 前半)》

ヤマト政権の成立…大和地方 (奈良県) を中心とする政治連合

- ・当初から田植えが行われる
 - ・水田は湿田が中心
 - ・石包丁など磨製石器の使用
 - ・木製農具を使用
 - ・高床倉庫への貯蔵
- ⇒初めて弥生時代の水田跡が発掘されたのが登呂遺跡 (静岡)

- ・支石墓や甕棺墓の出現 (九州北部)
 - ・墳丘墓の出現
 - ・ [f. 青銅器] の製作…祭祀用
 - ① 銅矛・銅戈…九州北部中心
 - ② 銅剣…瀬戸内海中心
 - ③ 銅鐸…近畿地方中心
- ⇒共通の祭器として使用する地域圏の存在
荒神谷遺跡 (島根) …銅剣大量出土
加茂岩倉遺跡 (島根) …銅鐸大量出土

- ・高地性集落の出現
- 瀬戸内海沿岸を中心に山上に築かれた
⇒例: 紫雲山遺跡 (香川)

- ・鉄製工具・鉄製農具の使用
 - ・乾田の普及
- ⇒農業生産力が向上し、集落が増加
- ・大型の墳丘墓の出現

前方後円墳の出現